

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 先端社会研究所 |
| 大項目 | 0 理念・目的 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 |
| 要素 | 理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応 |
| 小項目 | 0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 |
| 要素 | 構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法 |
| 小項目 | 0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 現代社会における先端的な課題に学際的な観点から取り組むことを通じて、広く社会に貢献していく。 | →社会状況に即応した先端的な研究テーマの設定と大学外の諸機関・組織との協同の実践状況。 | B | B | | | |
| 2. 「ミッションステートメント」に適った関西学院大学独自の研究成果を公表する。 | →研究成果に対する内部評価/外部評価の実施状況（運営委員会等での内部評価実施/関連研究者への外部評価の依頼）。 | C | C | | | |
| 3. 現実社会から提示される課題や要請に対応しつつ、「共生/移動」、「景観/空間」、「セキュリティ/排除」を主たる切り口とした先端的な学術研究成果に裏打ちされた社会貢献を果たしていく。 | →外部組織との協同のもとでの研究会、シンポジウム、Sキューブ事業の実施状況（年間2-3回の実施） | B | B | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|----------|---|
| 小項目0.0.1 | 0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 |
| | <p>(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない</p> <p>(理念・目的) 21世紀COEプログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究－文化的多様性を尊重する社会の構築」で得られた成果を発展的に展開することを目的に、2008年4月に設立された先端社会研究所は、激変するグローバル時代の下での社会状況の分析と問題の解決を目指して、国際的な水準における研究拠点の形成に取り組む。また、従来からの理論概念や調査方法自体を再検討することを通して、これからの時代に求められる先端的な社会調査研究の可能性を、国内外の研究機関・組織との連携・協力を通して模索するとともに、共同研究の成果を広く社会に還元すべく、さまざまな民間・行政組織との関係構築を目指す。</p> <p>(現状説明) 「他者問題」の解明を通じて学際的で先端的な研究拠点を旨とする先端社会研究所の活動は、相補的な4つの領域－研究 (Research)、教育 (Education)、自発的な市民活動への支援 (Empowerment) 及びネットワークの構築 (Networking) から構成されている。 2010年度より、共同研究として三つのプロジェクト (①共生/移動、②景観/空間、③セキュリティ/排除) 体制のもとに研究所としての研究活動を遂行した。各プロジェクトのもとに指定研究と公募研究を設け、後者採用に際しては全学に広く呼びかけるかたちで募集を行った。 各プロジェクトの研究進捗状況や課題等に関しては、定期的 (原則として月一回) に開催されるリサーチ委員会の場で報告と協議の機会を設け、三つのプロジェクトの有機的な関連性の形成に努めた。 また、プロジェクト研究の一貫として、行政機関 (尼崎市の経済振興・景観行政政策への取り組み) と連携のもとで「エクスカーション」を実施した。これは今年度の研究所におけるSキューブの実践である。</p> |
| 小項目0.0.2 | 0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。 |
| | <p>(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない</p> <p>(現状説明) 2010年度は、以下の活動を通じて本研究所の研究成果につき大学構成員への周知、及び社会への公表を行った。</p> <p>1. 教育活動 ①2010年度先端社会研究所リサーチコンペ 大学院学生・研究員による先端的な研究への取り組みを支援することを目的としてリサーチコンペを実施した。秋学期にコンペウィークを設定し、その期間中に応募者の研究計画等をHP上にアップするとともに、公開のプレゼンテーションの場を設けて審査を実施した。 (申請4件、採択4件)</p> <p>2. 研究活動 ①関西学院大学先端社会研究所－NIOD (オランダ戦争資料研究所) 第3回国際ワークショップ報告会 日時: 2010年4月23日 場所: 先端社会研究所セミナー室 ②関西学院大学先端社会研究所－雲南省社会科学院交流 日時: 2011年3月14日・15日 場所: 中国新平県揚武鎮イ族集住村落 ③定期研究会 (10回) ④景観プロジェクト定期セミナー (15回) ⑤景観プロジェクト主催エクスカーション (巡検・社会見学) 日時: 2010年11月27日 場所: 尼崎港 ⑥出版活動 関西学院大学先端社会研究所紀要第4号 (2010年10月刊行)、同第5号 (2011年3月刊行)</p> |
| 小項目0.0.3 | 0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| | <p>(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない</p> <p>(現状説明) 研究所に運営委員会を設置し、教育・研究活動計画が理念・目的に沿って設定されているかを検証するとともに、研究所の運営及び各種事業の企画・立案を行うためにリサーチ委員会を設置している。また、シンポジウムの公開や紀要等の発刊によって活動を公表することで、その適切性の検証の場としている。</p> |
| その他 | |

《評価指標データ》

本学の育成した人材 (卒業生) に対する社会 (企業) の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスター・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

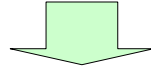
★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ★ 小項目0.0.3 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

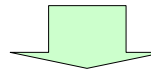
| | |
|------------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ★ 小項目0.0.3 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ★ 小項目0.0.3 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|------------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | |
| ★ 小項目0.0.3 | |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|-----------------|--|
| ★ その他 (自由記述) | |
|-----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 進捗評価が昨年と変わっておりません。研究成果の公表とそれらに対する評価の獲得はぜひ実現していただきたいものです。今後の努力によって目標の達成に近づくことが期待されます。
- 目標に対し着実に進展しています。
- 研究成果に関する内部・外部の評価は研究の質を確保する上で不可欠なものであることから徹底を図る必要があると思われます。この意味において、「進捗評価」が「C」の事項については、「改善すべき事項」において現状と課題を根拠に基づきながら具体的に記述することが望まれます。
- 現状説明は丁寧で適切です。
- 昨年度、改善すべき事項において示された改善方策が実行されたことが分かります。
- 周知、公表することにより、効果が上がることが期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述



「進捗評価」が「C」の事項については、次年度の記述では、より具体的に記述するよう改善する。